

ハスト週報


第九百四十三号
昭和四十三年
五月二十日
発行
DIRECTOR
KOITI MORI
REDATOR
SHION ODA
RUA PRES-
VARGAS 188
C. POST. 112
FONE. 40
BASTOS
C. P.
ANUAL
N. CR \$
8.00

長椅子 28

(落語) 市長選挙遠望

A 今年はこのにも市長さんの選挙が
ますのやな。
B Z市長はんも功成り名遂げて、愈々
今年一杯で御引退や。大体はHNZの
の三市長とも日系で、日系人の多い市
やから、何となく親しみ深い感じやっ
たな。
A その前の市長はんと比べて、どない
だっしやろ。
B 日系以前の市長さんといつても、こ
ういふ小さなムニシッピオやったから
、せいぜい道路工争くらいのことかい
な。わてら、どんな治績あげはったん
やら、よう知らんわ。余り関心なかっ
たな。
A 郡の歳入などにCIMのりべートで大
分おおけくなつたそうやから、これが
の市長はんは、やりようならはるやろ
。
B なんせ、日系初代市長なんかの時
は、何をすするにも予算が無うて、州知事さ
んに請願して、やつと警察署建て、もう
つたり、水道工事資金の話をつけて工
事に着手するのんが精一杯の時代やっ
た。
A 日系二代目の市長はんは、有名な何
とやら州知事の懐に飛び込んで、いろ
いろ目覚ましい仕事をしやりましたな。
B 日系第三代目は、中々やりました
たでえ。
A そら、あんた、あたりまえだすわ。
CIMのりべートやのうて堂々と歳入
がおますやないか。だから見て見なはれ
市中でも当分手の届きそうもない方面
まで舗装道路になりそうすわ。今し
きりに、土管工事やりやります。
B ここも長いこと、オンボロ町やっ
たが、これで面目一新しますな。目ぼし
い建物もシマンシマンでけるし、道は
よくなるし、けっこうやおまへんか。
A 時に、こうなつてくると、次期市長
はんのなり手も多しことやっしやろ。
B 誰れかもう名乗り挙げましたんか。
A 横文字新聞には、Mさん、Sさん、
Nさんなど日系人候補者の名は見える
そうですが、はつきりしたことは判り
ぬへん。この間だある家で青年の方

錠剤
わかもと
家庭常備薬
胃腸と栄養
ガンヨ ボーセンホルセント
癌予防100%
衰弱に、胃腸強化に
超力酵素配合わかもと




蜂蜜配合
わかクリームお肌の
栄養剤 寒いときのアレ
を防ぎましよ
純植物油のわかポマードで
頭のお手入れを!

わかもと製薬株式会社
わか美容化学研究所



Sapataria Bastos

紳士の服装とは、
先ず靴の美しいこと。

高級紳士靴を
おもとめなり
最古の信用を誇る
ハマカワで

早川靴店

電話 五五



ちが集まって、話の中に市長候補の名
が出ましてん。日系人が二人と純伯人
が一人だす。青年たちの意見ではMさ
んの支持者が多い相で、Nさんは就成
人物で、魅力がないというのでうしや
ろか。支持者が少い相です。老壮年層
はN向き、青年層はM向きという感じ
だす。そう選挙やさかいに、好きな方

糸音交遊録

前書

色々な人をここに登場してもらったこと
にする。何かにつけ交遊のあった人の面
影をのこしたいと思っただけで、その人
の事績を必ずしも、四十年史という正史
と結びつける所謂オリソドックス的な
味は含んでいない。偶然にバストス四十
年祭という祭典にぶつかって感興の深
まに、身近に浮ぶ人々の横顔を次々と
捉えていきたい。

小林逸郎氏の巻

銀行の支店長会議がすむと、年中行事
の心の洗濯、料亭の無札議が催されるの
である。アルコールが適当にまわると、
三味が鳴り唄が出る。昔とちがって、近頃
では三味の唄なんでも昔とは流行らぬとい
うより、唄う唄がなくて、流行らぬとい
お座敷小唄や、王将、桑だとか、骨まいで
の時代になつてしまひ、料亭を噴かせる

時世である。小林の逸さんは、年は四十
の準青年であつたが、三味線の音色が好
きで、自宅には、三味吉、おはん、吉
吉といつた赤坂芸者の吹き込んだP
のシスコを備へ、しきりと「小唄」の研
に余念がなかつた。
サンパウロの料亭などで宴会がある
と、一番しまいに座長格で「青柳」や
とすまじい声で一つ二つ唸つて、オホ
と合の手だ。と手で制し、さとおも
むるに首をふつて、嘗の高音をきかせるの
である。四十人近い先輩同僚を前にして
新唄の一つも三味線にのせて唄え、人は
代切つて逸郎さん。三味線の先を前にして
小林逸郎さんが、三味小唄の名手となつた
ことに、小唄の支店長ともなれば
それである。銀行の支店長ともなれば
ことには、日本では話にならぬ不
宴席で小唄の支店長ともなれば
ことには、日本では話にならぬ不
い。出世につなぐは、酒は呑めず歌は唄
えず、幸いブラジルでは酒は呑めず歌は唄
とされ、料亭通いなどせぬ方が、何となく三味
線唄が好きだ。たらし、小林氏は何となく三味
店からバストへ、三味線唄の好きな古田義松老と
不幸か、バストへ、三味線唄の好きな古田義松老と

飼料強化剤

総合ビタミン、ミネラル及びアミノ酸製剤

AVEFARM アベファルン

- AVEFARM 1 雛育成鶏用
- AVEFARM 2 成鶏用
- AVEFARM 3 種鶏又は肉用
- AVEFARM 4 肉鶏用



鶏の新陳代謝を補強し、育成率、産卵率、産肉率を
高めます。即ち、飼養要求率を高めます。
高産卵期の成鶏の健康維持に!!
病鶏を少なくするために!!

ミネラル製剤

MINERALMIX AVES

{ SUINOS
OVINOS
EQUINOS

使った方が、少量で骨格体格を作るので予想以上に
体重が増えた! と。肉鶏飼育に特に有効。

REPRESENTANTE
EM BASTOS
DIRIJA-SE A
T. USHIAMA

AV. 18 DE JUNHO 375

VE TIFARM S/A

AGROPEC LTDA



うし あま たか くに
牛 尼 貴 國

目下架設中 TELEFONE
No 246

知り合になり、二人で私の所にやって来て、「どうだ」と小唄の研究会を作ろうじやないか」と相談をもちかける。よからう、ということになって、先生格にその頃岩田のおばさんを見たのみ、植原義一夫人菊子さんも三味線が上手だというので、わたりをつけ、一九五九年某月私の所に一同勢揃いして、三味線のドレミファから稽古を始めた。

三味線なしで自分の都合のいいように唄う癖のついていては、合の手もくそもあったものではない。立板に水の如く、シマアジャアと唄ってしまおうので、師匠のおはさんが前奏のあと「あおーやぎのー」という一節から、次の合の手をポツンポツンと弾きながら「この間は休んでいて、ヤツと掛声をかけたら」かけええ……に「誂やういらいな」と続けるんですわ、よろしいかし」という具合に手をとって教えたのである。

小林さんは「若手だったので、お坊ちゃん扱いで、出来るまで十べんでも二十べんでもやらせられる。五、六譜の楽譜帳を持って来て、三味の手や、合の手まで書き込み、自ら歌手となり、自ら夕クト代りに右手をふって、大汗かいて習った。

毎週土曜日に八時から十時、あいには十二時近くまでやり、一年つづいたからこのハツスル振り、判ってもらえるだろ。研究会が始まると、宮武忠老という味線の上手が加わり、この人は唄が濃れて、小唄も中々うまいもんである。名手が小唄も中々うまいもんである。三味は名手が揃ったが、唄の弟子の方はさっぱりで、中島善ちゃんなど筋のよい人も加わったが、出聖してしまっている。

小林進郎持ちゃんも中心であった。好きこそもの上手なれ、というが、逸ちやん位い熱心にやれば上手になれる。鶯の高音ばりの所になると一寸声がかすれるが、四畳半などでやれば、芸者が嘆声をもらすことがランキード。稽古は通一度が一月一度とたり、しまいは銀の仕事に忙殺されて、隔月に一度となうよい方であった。

小林氏はバストス在勤五年、とにかく熱心に稽古した。彼は、日本小唄のメロテの判る準二世として、今、ノ口線了市で活躍しているが、A市あたりには古老が多いから、時々はおさらいをしていることであらう。

バストスではカスカツタ区の電気導入について、よい指導をつとめ、銀、ノの声を高めた。逸郎とは俳名、俳句も中々流味のあるものを作るが、唄程きちがいではない。

絶世の美人、うわぜいがあって堂々たるもの、伯人がふりかえる程である。小林氏の本職、経済論をよく聞く折りがあつたが、中々堂に入つて居り、首を振つて唄う。小林氏は別な風格をもっていること、たのもしく思うのである。

話上手で、おぼつかしいインフレーション、デフレの講釈を面白く解説してくれたが、バストスにこういふ人がいてくれたら、と、始終思うことである。

(この稿了り) 糸音

お知らせ

おいしい
うさみうどん
ぜんざい

支那料理は一品料理

シネマのお帰りにおたちより下さい



ぶたまんじゅ
ぎょうざ
やきそば
その他おいしいものが
いろいろ出来ます。

食堂 うさみ

電話 二二二

御礼

金五十コント也
去る五月十九日御婚披露宴の調理方を拝命お手伝い申上げました。処前記の如き御手当てを下さいました。特別な御計らい有難く御礼申上げます。

PLバストス婦人会
太郎田 御両家様 (PL教会内)

Tempero de Alta Qualidade 99.9%
Glutamato de Monosodio 99.9%

SUPERAGI



聖市ルアカルボンブエーノ街二一二番七階

遠藤貿易株式会社

スーパー味

きゅうりのおか、漬

寒くなってから青々とした胡瓜を取出していただくのはうれしいもの。胡瓜は安いときに、沢山漬けておくと重宝します。漬け方はおからと塩と混ぜ合せておく。きゅうりは中位いの、新鮮なよい品を選び、よく洗って水分を切る。桶は熱湯で消毒して乾かし、きゅうりを並べべしたら、その上に塩おからをぎゅっしりとおしつけてつめ。またきゅうり、塩おからとくり返えして漬けておく。

すきのない押ぶたをして、きゅうりと同じ位の目方の重石をのせ、ごみの入らぬよう、上ぶたをして、涼しい所に保存しておく。冬になって使うときには、塩気の少ないおからで漬けかえる。重石はいらない。四五日から一週間ぐらいで青い胡瓜が楽しめる。

食べ方 好みに切り、スーパー味と醤油をかけます。薄く刻んで、おろししょうがや青じそを混ぜる。最初漬けたものをふりかけてもおいしく頂けます。最初に漬けるとき塩が少なると変色しますから御注意下さい。

スーパー味はこの食品店でも売っております。



蛮界抑留記

4

ハンスターテン
西原 享 稔

第四章 土人の要塞

土人達が、この騒ぎに気を取られていゝるひまに、わたしたちはこの危険地域を通り、ようやく帰ることができたので、あつた。食料の補給に白人軍は意気が揚り、戦いは一段と活発になった。こうして、約一ヶ月にわたる戦いを続け、土人軍を一步も植民地内に踏み入れさせぬことを許さなかつたのであつた。そのうち、密林に出没する土人の姿が少なくなり、やがて姿を見ぬ日がきたので、敵状を偵察することにした。ポルトガル人の若者が三人、土人の要塞に近づいて様子を見ることが出来た。要塞は全く無人となつて居り、土人軍は遠く総退却していることが判明した。白人側も十数名の負傷者を出したが、土人側は二百を超え、死者があつた。戦がわたしたちの勝利に終わったことを喜んで、植民者の感謝に満ちた言葉を送られて、わたしたちはイガラス村を引揚げた。

第五章 ペルナンブッカ出航

オランダの町に帰ると、総督をはじめ市民をあけて、白人救援軍の武勇を賞賛し、大歓迎会を開いて、わたしたちをねぎらつてくれた。こうして後、わたしたちは、再び船隊に乗り、生水、野菜肉類、穀類その他の食料を積み、帰国の準備をしたのであつた。わたしたちは、市民一同の感謝と感激のひとみに見送られて、ベルナンブッカの港を出航した。四十マイルを航行して、パライバ港の入口に達したのは夜のことであつた。ここに寄港して、パウ・ブラジルの船を珍重された染料をとる材木、ヨーロッパという国名のおこりを積み込むはずであつた。またポルトガル人の好意をもつポチガール族という土人から食料の供給もうけた。またポルトガル人の船隊を港内に入れようとしてふと見ると、港内にフランス船が停泊していた。近づいて見ると大量のパウブラジルの積み込んである。海賊船であつた。パウブラジルの沿岸に出没して、さかんにフランスの特産物や財宝をかすめ取つていた。わたしたちは、このフランス船を捕獲して、パウブラジルの取り上げようとは

かつた。しかし、この計画は、不運のも
 ととなつたのであつた。私たちが近づく
 と、フランス船は、直ちに降伏の様子を
 見せたので、なお近づいていった。する
 と油断を見すましていきなり砲撃を加え
 て来た。わたしはあちもあちもあちも
 が、不運にも敵弾が命中して、たちまち
 火災を起してしまつた。その上敵の不意
 打ちをくらつて数名を失ひ、十数名が負
 傷したため、大混乱に陥つてしまつた。早
 この混乱に乗じたフランス船は、いち早
 く外海に脱出して、全速力で逃亡してし
 まつた。ベンテアード隊長は、湾内に船
 を止めて修理を急ぎ、一日も早くポルト
 ガルに帰国しようとした。決心した。そこ
 食料の補給を取り止め、船は一路ポルト
 ガルに向け出発した。
 しかし大西洋航海中の食糧は言語に絶
 するもので、非惨をきわめたものであつ
 た。毎日一人宛、水は小籠に一杯と一と
 握りのマンジョカへ木いも、粉が六えら
 れるに過ぎなかつた。そこで乗組員は魚
 を釣つて食料の補つた。そこで乗組員は魚
 の中には、魚さえ釣れない日が続くと、水夫
 の皮革類をひそかにかじる者さえあるほ
 どで、飢餓状態はアンソール島到着まで
 続いたのであつた。
 一五四年八月十二日、百八日の長い
 船海を終つて、ポルトガル領、アンソール
 島に到着したのは朝の七時頃であつた。
 島に上陸すると、まず食べ物を手にし
 た。血のしたたるようなビブテキ、果物
 清水、まるで豚のようにならば、果物
 むさぼり飲んで、やつと長い間の飢をい
 やしたのであつたが、この豚どもの中に
 わたしも混じつていたことはいうまでも
 ない。
 島に滞在すること十数日、航海疲れも
 去つた。もうそろそろ本国向け出発しよ
 うとするある日のこと、島かげに一隻見
 かぬ船を発見した。近寄つて行くと、そ
 の船は、やにわに発砲して来た。そこで
 わたしたちもやむなく応戦して、敵船を
 沈黙させてしまつた。
 と、わたしは、フランスの船を拿捕してみる
 の食料その外商品を積んでいたので、こ
 れを勝利品として取り上げた。海賊たち
 は、砲戦中にならぬとみてボートに介
 乗し、向うの島にのがれ去つたので、追
 うのをやめて、わたしは港に帰つた。
 その時五隻のポルトガル船が、王家の旗
 をひるがえしながら入港して来たので、
 祝砲をうってこれを迎えた。インドより帰船
 隊を、このアンソール島まで出迎えに来
 たのであつた。

AUTO-ELE TORO=TECNICA=BASTOS

YABUUTI S/A SHIDA

RUA-ADHEMAR DE BARROS 483 FONE:196

おしらせ

自動車各種のマルカの車
 コンビ・セダン・ヴォキス
 ウイリス・ツツピ各種の車
 トラクトール、各種のマルカ
 ○電気の仕事一切迅速に、
 責任ある仕事致します。
 発電機モトールアラソキ
 自動車の配線等一切、
 電気モトールの巻替え
 ○ポンバの修理
 ○洗濯機の修理
 ○バッテリーの充電等
 電気の仕事なら一切の御
 用命に應じます。

オフィシナ 藪 内

お知らせ

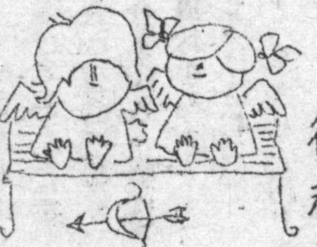
クンベ・パトリ

入植 二日間 開放致します

パール

御利用下さい

子供用・大人用
ピシーナ



パール御加入は左記へ

柴田時計店
大倉次郎

クルベパトリ

エラスモペルソ
リオテペイン橋

リンズバストス
合同句会

五月五日 於六野鯉池

枝豆や立ち鎌う粗母なりし
池かづけば山の囁き秋の暗
池々にバストスの鯉揺れて秋
秋の声きこゆる如し句碑に侍つ
遠き汽車音なく行くや秋の声
枝豆は南大河のものとかや
小馬くる声美しき女客
秋声や土器発掘の山荒れて
秋の水トノボ返りに鯉沈む
田螺殻踏んで鯉池見等す
秋深し巡る二の池三の池
お土産の鯉にあり秋の水
枝豆や野立の寔に茹で上がり
白鷺の憩う池間の秋の草
鯉跳ぬや磔の如く小鳥来る
麒麟草庵主夫婦の岐阜訛り
山立が終りし畝に大根蒔く
ハイネーラ湖畔の莊の鯉料理
日雇も家の一人月見豆
庖丁を石にて磨げば秋の声
拾い来し石に値がつき秋日和
枝豆につきめ姑の故郷ばなし
泊め申す客に枝豆暖かく
秋晴れの河原にうろつく石マニア
枝豆や上手な日本語ゑくぼの娘
ささ波に跳る緋鯉や秋の池
軍艦岩砂にのり上げ池廻るる
枝豆や明治の味を忘れかね
子の容に仕度してやる月見豆
秋高し破顔一笑 養鯉翁
枝豆を出せば好きだというニグロ
飾られし奴隷道具や秋の声
泣き所違う道連秋の声

寿和 B
一川 L
芳泉 L
惠惠 L
赤城 L
保城 L
寿和 B
一川 L
南岳 L
芳泉 L
真女 L
寿和 B
別生 L
弘仲 L
南岳 L
鉄之輔 L
由美 L
米子 B
只男 L
保城 L
耕雨 B
耕雨 B
真水 B
糸音 B
康雄 L
弘伸 L
北眠 B
南天子 B
孤剣 L
竹馬 B
小風 B
想水 L
鳴子 L

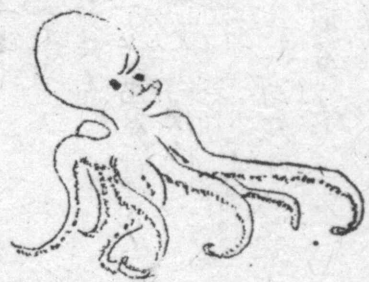
バストス短歌会五月例会作品

発表其の一

書き疲れ癒さむと出て佇つ庭にポインセチアの
燃る冬空 宮武勝甫
帰えらぬと言ひ張り尚も遊ぶ孫秋日ぬくと
川辺の砂に 森重羊鈴
心やさしき故に失敗重ね来し吾が子も遂に
父となりたり 森重扶美
遅れたる作業に心ひかれつつ風邪に筆れば
痛むふしじぶし 信田千恵子
もぎ入れるナスビはラッタにきしみつつ午後の
秋陽を吸いてぬくとし 土井はやし
中気病みて遂に空しき姉思う三年の忌日
めぐり来りて 石橋美津雄
六月例会は第三日曜日(十六日)夜八時より
森重宅にて

キタンド
バーレル
阪東
レストウラソテ

食料品
野魚
鮮魚
手打うどん



入植祭には宴会集会用に

サロンを

御利用下さい

阪東商店

お知らせ

汎パウリス夕

生長の家

子供お話大会

期日 来る六月二日

(日)午前八時より

場所 バストス生長の家誌友会館

父兄は勿論一般の方々も
御来聴下さる様ご案内申
上げます

主催 汎パウリス夕生長の家
青年会

八月中に出荷の出来るカリフォルニア種
甘くて舌にとろける美味の蜜柑^{みかん}

モロコツチ苗木分譲

当店専売・御問合せは左記へ

アベニータ・デズオイト デ ジョンニヨ街 三三七番地

浅川 義範

電話 一四七七
郵函 一七七七

ペドラテパウ

遠征紀行記散文詩

一九六八年四月十五日

援協職員 落亀 作市

ヒマナサントの三日間

誘れて行くペドラパウ
君君知るや其の紀元
神の遺せし跡という

一行七名勢揃い

朝まだ暗き支協を

車上の人とはなりにける

漫談放談亦愉し

ズトラ街道無事通過

延々長蛇の急坂を

登るやエンジン軽やかに

カンボスジョルドンに着にけり

療友見舞って数刻を

語る言葉に力あり

只よかったの連続だ

抱き合い喜ぶ嬉しさよ

軽い食事を頂いて

先へ急ぐと別れ告げ

奇む車上の人となり

悪路の山道登り行く

五十分余にして、パウに着く

其のは暮れて休養す

山間辺地に斯くもまた

設備の完備に驚嘆す

食事の後々亦愉し

気降下に薪たぎて

昔の歌や流行歌

阿呆多羅燈まで出る付末

明ければ天気快晴だ

午前六時はまだ暗い

男子三名女子二名

山の細道登り行く

一時間半にて尾根に着く

サアサアこれから大変だ

見上げる岩の高いこと

恥得知ったるYN石

先陣斬って登り行く

同行の女性も勇敢だ

猿のごとくに登るにぞ

其おくれじと後を追う

至直鉄の梯子段

踏みしめ踏しめ登るにぞ

足は硬直息はずむ

フウフウくの連続だ

負けてなつじと突進す

下を見るなと言われれば

見たくなるのが人の常

下は千尋の谷底だ

雲は眼下に飛来する

胸は高鳴り息はずむ

汗は流れて目に沁みぬ

思わず過える姓名は

南無や八幡大菩薩

勇を鼓舞して登るにぞ

上から先達声高に

もうもうじきだ元氣出せ

もう一息た頑張れよ

やがてのことと頂上に

着くや元氣百倍す

良くよく登った元氣者

言われて雄叫び萬々歳

仙人ならぬ雲を吸い

腹ははいの深呼吸

見おろす下界の連山は

「壯観美観」只一福の絵巻物

記念撮影その姿勢

バチバチ撮った枚数は

我が生涯の記念なり

長く大事に保存せん

サアサア帰ろうぞ出発だ

言われて未練を山頂に

かならず来ますと別れ告げ

一行に従っていくたるなり

南米のスイスか軽井沢

標高二千メートルの

ホイスカウトの訓練所

守り育てん青少年

別れを辞し帰り来る

思出残しいささうば

亦采る時のたのしみを

胸に抱きてサヨウナラ

専売特許第七〇四五二號

螺旋式洗卵機

熱湯式と熱風式とあります

完全洗卵破卵ありません

銀行融資致します

バストス市

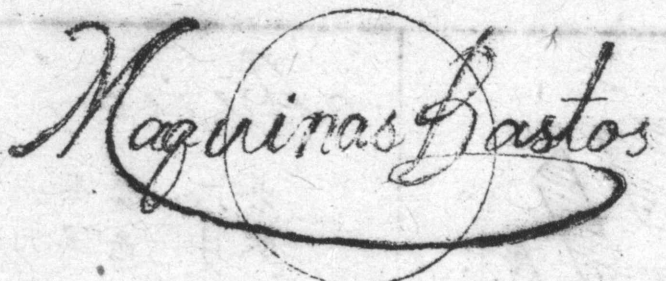
石橋農具研究所

郵函二六 電話二五

リーノホリス市

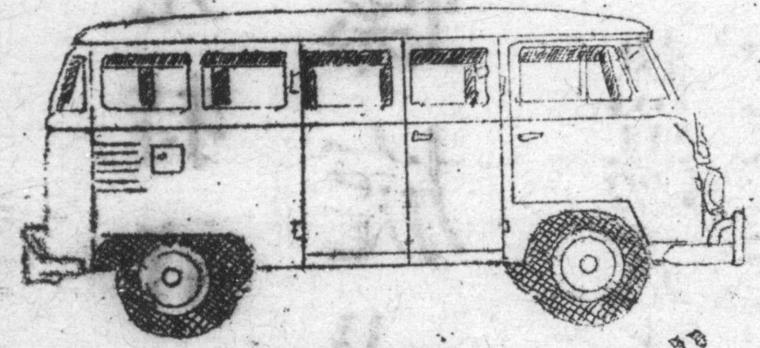
石橋農具研究所分工場

電話二六 七二



目下工場拡張中に付き近々量産開始
して、即時引渡し準備中であります

ヴォクスワーゲン
Volkswagen



コンビ

カルマンギア 1.500
ピックアップ
ヴォクス

カリフォルニア モートル S/A
CALIFORNIA MOTOR S/A
OSWALDO CURZ
C. POST: 156



皆さんから愛用される
世界一の大衆車各戸に一台

Aviso de Cine

立本 2
六月四日(火) 五日(水) 両夜とも八時 五才
松竹 天然色
花の舞子はん
花のかんざしゆれゆれ中れて、若い時がうるんでいる、
松竹天然色、あの感激をいま一度、御出発からご帰国まで
皇太子ご夫妻南米友好親善の旅 同時に上映 映写時間堂々五十分
六月七日(金) 八時 八日(土) 九時半 十才
東宝 社長行状記
森繁久弥 小林桂樹 フランキ堺
三木のり平 司葉子 池内淳子
天然色 爆笑満載、年に一度のお別れメシシリーズ
六月九日(日) 九時半 十日(月) 八時 十才
東映 牙狼之介

Bastas

立本 2
五月廿八日(火) 廿九日(水) 両夜とも八時 五才
親愛なる天皇陛下様ノ軍隊は天国であります……
松竹 天然色 拝啓天皇陛下様
渥美清 中村メイ子 清川虹子
天然色 松竹 独立美人隊
長門裕之 左幸子 山下清
松竹 天然色 志村喬 加賀まり子 江利チエミ
五月三十一日(金) 八時 六月一日(土) 九時半 リッレ
加山の魅力またまた燃発、青春に肌かけて唄に恋にサッカリに大活躍
東宝 ①レッツゴー若大将
如山雄三 田中邦江 陳曼玲
星由里子 江原達怡 宝田明
六月二日(日) 九時半 三日(月) 八時 十才
日清 意気を感じず
小林旭 浅岡ルリ子 才朱幸子
天然色 伊藤雄之助 東野英次郎 封切り映画
「全伯に先き立バラスト封切」 ゴマをするより仕事で勝負、辞表片手に斬りまくる、意地と正義鉄腕男